

# WebLogon

Web認証ソリューションとしての  
コンセプトと位置付け

有限会社 リビッグ

<http://www.ribig.jp/WebLogon>

# WebLogonコンセプト

## 1 番目の コンセプト

- ・ セキュリティ

## 2 番目の コンセプト

- ・ 特定技術非依存

## 3 番目の コンセプト

- ・ 容易な導入・管理

# セキュリティ

## USBキーのインターネット認証

- ・ Webサーバはクライアントに接続されたUSBキーを、双方向のやりとりで直接認証します。クライアント側でデバイスに対応するユーザ名、パスワードを簡易入力するものではありません

## ワンタイムパスワード

- ・ 双方向のやり取りでは、認証を行うセッション専用のワンタイムパスワードを利用します。

## 専用API(セキュリティ専用のUSBキー)

- ・ USBキーはセキュリティ専用キーです。アクセスは専用APIでのみ可能。ウィルスが入り込んだり、データが保存されることはありません。

# 特定技術非依存

## HTTP/JavaScript 標準技術のみ

- ・ 特定メーカーの技術に依存しません。サーバ/クライアント間は世界標準のHTTP/JavaScriptのみで実現

## ActiveXは使いません

- ・ クライアントのUSBキーへのアクセスはHTTP/JavaScriptでは不可能です。専用APIでUSBキーにアクセス、HTTPでデータをやり取りするプログラムで実現します。このプログラムは通常の実行ファイルです。

## ブラウザを選びません

- ・ HTTP/JavaScriptと一般ユーザが実行可能な通常のプログラムで成り立つため、IEはもちろん FireFox, Chrome, Safari などユーザが希望するブラウザが利用可能です。

# 容易な導入・管理

## クライアント側の導入/管理

- ・ クライアントプログラムを実行する必要があります。実行されていない場合は、一度だけダウンロードサイトからプログラムをダウンロードして実行します。するとクライアントプログラムが“スタートアップ”に配置され実行されます。以降自動でクライアントプログラムはログインするたびに実行されます。これらの処理には管理者権限は不要です。一般ユーザ権限で行えます。

## サーバー側での導入/管理

- ・ 認証サーバを導入(外部提供のサーバを利用することも可能)。既にユーザ、パスワード認証を行っているであれば、USBキー認証に容易に置き換えられます。導入後、管理は基本的に不用。

## USBキーの導入/管理

- ・ サーバにUSBキーの情報と、USBキーを渡すユーザの情報を登録します。サーバ側でUSBキーが認証できたら、対応するユーザとしてログインします。サーバ側でUSBキーを利用不可にできます。
- ・ USBキーはExcel を使ってマウス操作だけで登録/管理できます。

# Web認証ソリューション階層

## ログイン 簡易化

- ・ ユーザ名/パスワードをUSBキー、指紋、Felicaなどで簡易入力
- ・ ユーザにとって入力の手間は省けるが、実質的にはユーザ名/パスワードと同じのセキュリティレベル

## 特定技術依存 ソリューション

- ・ IEで利用可能なActiveXを利用してクライアント側デバイスへのアクセスする
- ・ ActiveXに絡むセキュリティ脅威、ブラウザ依存、インストール管理(管理者権限必須)などの課題点

## 証明書

- ・ 標準技術のクライアント証明書をつかったWeb認証(証明書をブラウザに登録・スマートカードに登録)
- ・ 証明書の発行や管理に手間がかかる



# WebLogonの位置づけ

証明書

WebLogon

- ・クライアント側にプログラムが必要(証明書では必要としない)
- ・サーバ側に認証サーバ導入が必要
- ・証明書と比べ管理負担は少

技術依存  
ソリューション

簡易入力

# 目的、体制に沿ったソリューション

